

## 4 次世代へつなげる活気あふれる地域農業の実現 (胆振農業改良普及センター東胆振支所)

## 背景

## 【むかわ町の概要】

○水稲を基幹に園芸作物や畑作物を組み合わせた複合経営が中心である

○水稲の水張り面積を維持しつつ、野菜や花きの導入により収益性を確保している

## 【地域の課題】

○担い手の減少や高齢化が進み、農地の遊休化の懸念や労働力の不足など農業構造的な問題を抱えている

○中心的な経営体による規模拡大が見込まれる中、園芸作物の生産性の向上と省力化が求められている

## 普及活動内容

○施設園芸での省力化推進に向けて、トマトハウスで自動かん水装置を導入し、各関係機関と連携して効果を実証した



写真 トマト調査定点の設置

○環境モニタリング機器「みどりクラウド」によりハウス環境も測定

## 普及の成果

## 【具体的な成果】

○自動かん水装置の導入により、省力効果と増収効果を確認できた

表 自動かん水装置の導入効果

評価項目	自動区	慣行区	慣行比
かん水作業時間 (人時/10a)	1.4	28.0	5%
規格内収量 (kg/10a)	5,544	5,130	108%
a販売額 (千円/10a) 注1)	1,494	1,260	119%
b変動			
労賃 (千円/10a) 注2)	1.4	28.0	5%
支出			
かん水資材費 (千円/10a) 注3)	86	49	176%
(a-b) 差引所得 (千円/10a)	1,407	1,183	119%

注1) 販売額は、規格内のA品、BC品、FGバラ重量に、それぞれの単価を乗算。

注2) 労賃は、T農場の時給1,000円より算出。

注3) 自動区のかん水資材費 (一式160万円/8棟) は、耐用年数7年として年額を算出。

## 【導入農家の声】

- ・ トマトの手入れ時間、水稲防除を行う時間を確保できた。
- ・ 令和4年は全24棟でかん水の自動化。
- ・ 新たな水源の確保、ポンプ圧力やかん水チューブを見直す。

## 【成果のポイント】

○「むかわ町スマート農業研究会」の設立 (R3年1月) を通して、ホクレンやJA・町等と連携し、支援することができた